

# みんなの広場



▲初めて茶道の作法を体験した「子どもたちのお茶会」では、抹茶やお菓子のいただき方を学びました。  
7月21日(土)／航空記念公園内・彩翔亭  
(撮影／市民カメラマン・谷 亮)



▲ゴム風船をボールにした『風船バレー』では、白熱した熱戦が繰り広げられました。楽しく盛り上がった「第3回障害者スポーツ室内大会」  
7月29日(日)／市民体育館 (撮影／市民カメラマン・松崎 満)



▲利用者が、祝いの詩や舞で感謝の気持ちを表現した「緑寿荘開設20周年記念式典」。当日は、『所沢のだからもの』と題した記念講演も行われました。 8月4日(土)／緑寿荘



▲米国ディケイター市の高校生5人が、剣道を体験し、日本の文化と精神に触れた「姉妹都市学生交流事業」  
8月3日(金)／県立所沢北高等学校

## みんなのギャラリー



## 歴史再発見 ところざわの文化財

### 昭和の実業家の大別荘 ～黄林閣～

国道463号線浦和所沢バイパスを浦和方面に向かい、坂之下交差点を過ぎた左側に大きな長屋門が見えます。この長屋門横の入口の中に入り、石段を登りきったところを通りからは思いもよらぬ大きな茅葺き屋根の民家が現れます。  
黄林閣と呼ばれるその建物は、電力事業に生涯を捧げた実業家、松永安左工門が戦前から戦中にかけて使っていた別荘です。元は柳窪（現在の東京都東久留米市）で大庄屋の村野家の住宅として天保15年（1884）に建てられ、昭和5年に現在の地に移築されました。  
豪壮な茅葺き屋根の入母屋造りの外観は、民家というよりは寺の庫裏を思わせるようで、一般農家の住宅と違い多室間取りとなっています。規模は桁行が13間半、梁間が6間半、向かって右の大戸口を開いて土間があり、左半分に東西南北3列に並び9室が設けられています。ふところの深い土間や天井の高い座敷は、質実な中にも格調高い雰囲気を感じさせており、江戸時代後期の高度な建築技術を今に伝えています。昭和53年には国の重要文化財に指定されました。



この別荘の主であった松永安左工門は、日露戦争後より電力事業に情熱を注ぎ、九州および中京地区に相次いで電力会社を創設し、「電力王」「電力の鬼」といわれました。しかし、昭和13年に電気事業が国家の管理下におかれると、実業界を退き、この地で隠居生活を送ることとなりました。  
茶の道に専念し耳庵と号する茶人としても知られた松永でしたが、戦後に実業界へ復帰すると、建物を昭和23年に東京国立博物館へ寄贈し現在に至っています。

黄林閣（坂之下437）／一般公開日：毎週木曜日（問い合わせ ☎2944-2009）

## 子どもたちと一緒に輝く7日間

関 愛子さん（北秋津在住）

し、「素の自分」でいる大切さを学びました。「親でもない、先生でもない自分たちリーダーが、子どもたちの新しい一面を発見し、アドバイスしてあげられる」と自信に満ちた目で話してくれました。  
そして「サマースクールにはいろいろな人が集まり、だれもが自然体で自分を隠さずにいるのがすてき」とその魅力を語ります。  
しかし、決して楽しいだけではありません。夏の1週間のために半年以上前から準備をしたり、思いがけない事件が起きたり、計画通りに運営できず先輩に怒られて涙することもよくあります。それでも、子どもたちにとって最高のサマースクールになるよう全力を尽くします。それが愛子さんにとってのサマースクールです。  
7日間の楽しさや厳しさをともに分かち合った子どもたちを、リーダーは「サマーっ子」と呼んでいます。愛子さんが子どもたちにとって大切なボランティアリーダーに成長したように、今回のサマースクールでも、次代を担うリーダーが誕生することでしょう。

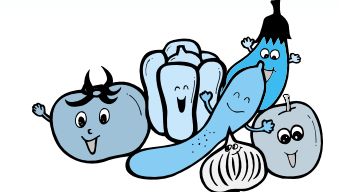


## はつらつ野老っ子



今回ご紹介する方は、6泊7日の長い期間で行われている所沢サマースクールで、大学生リーダーとして奮闘している関 愛子（以下、愛子さん）さんです。  
今年で24年目を迎えた所沢サマースクールは、小学5・6年生が夏休みの1週間、テレビもゲームもない環境で、自然体験や集団生活を体験する青少年育成活動です。この活動は高校生以上のリーダーがサポートし、愛子さんはリーダーの中心的なまとめ役として活躍しています。  
愛子さんは、小学6年生のときにサマースクールに参加した卒業生で、高校に進学したころ、リーダーからの手紙を受け取り「今でもあの夏の7日間は続いているんだ。自分もやってみよう」とリーダーになる決意をしました。  
高校3年間は、女子の班の担当リーダーでした。「リーダーとして何もできなかった」とリーダーの難しさに気づきました。大学生になるとさらに立場も変わり、全体を見ながら子どもやリーダーの意見を聞かなければならない厳しさをあらためて感じたといいます。そんな愛子さんは「子どもの素直で正直なところが大好き」と話

**有機菜園を目指して**  
東狭山ヶ丘・町田 寛康  
私がこの地に住居を構えて30年になる。家の前の畑を借りる幸運に恵まれた。所沢の畑は石もなく排水もよく土も軽いので作業がしやすい。苗はすべて自作であり、生ごみなども捨てずに土作りに利用して、エコな品種改良のためか、以前と違ってトウモロコシでもキャベツでも一斉にできてしまい、処分が困ることがある。  
自分で作ったものは、なぜかおいしく感じ、友人におすそ分けをする。自己満足が逆に分なお心遣いをいたさず、海老で鯛を釣るよう、心苦しい思いをたたくことがあつた。  
私の作った野菜を孫が楽しみに待っているかと思つた。歳をかえりみず、風邪ひとつ引かず健康を保つ原動力になっているのかも知れない。



## 試して楽エコ!!



### ～不要な品物どうしていますか？～

皆さんの家では、タンスや押し入れの中に、まだまだ使えるけれど、自分では使わない、もったいない品々が眠っていませんか。

衣類や陶磁器の回収は地域の拠点回収を利用し、必要な方は、「もったいない市」をご利用ください。それ以外の品物も、ごみとして処分せずに必要な方に「使っていただく」という気持ちで、「フリーマーケット」などを活用することもひとつの方法です。

「もったいない市」…古着の利用促進を図るイベントです  
「古着・古布・陶磁器の拠点回収」と「もったいない市」の日程は市ホームページでご覧になれます。なお、詳細はお問い合わせください。

フリーマーケットは、不要な物をリユース（再使用）することの大切さを楽しく体験できるイベントです。またリユースを目的に人々が交流できるコミュニケーションの場でもあります。フリーマーケットの出店方法などの詳しい情報は、主催者に電話をして問い合わせましょう。

また、フリーマーケットに参加できない方は、リサイクルふれあい館・エコロの不用品登録制度（本号情報館14ページ参照）や地域情報紙などの「ゆずります」コーナーなどを利用していただくはいかがでしょうか。

いずれの場合も、「次の方に使っていただく」という気持ちを大切に、楽しみながら参加しましょう。



問い合わせ リサイクルふれあい館・エコロ（☎2994-5374・FAX2994-1118）

**皆さんからの写真や投稿をお待ちしています**  
▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『冷や汗』▶文章は添削あり▶締め切りは9月6日(必着)▶掲載者には記念品を贈呈  
◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール（アドレスshiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

**誰でもエッセイ**  
「家庭菜園」  
所沢出身の野菜たち  
くすのき台・中島 純子  
6月中旬、自宅のベランダでじゃがいもがとれた。小指ほどの小さな物から、卵1.5個分くらいの大きな物まで計7個。  
生まれて初めての芋掘りに、4歳と2歳の子どもたちは大興奮。全身を泥だらけにしなから、夢中でお宝探しをした。  
さて、この芋芋たちの親（種芋）、実は「所沢出身」なのである。近所の畑で食用として売られていた物を、市販の培養土に植えたら、ひょっこり芽を出しぐんぐん成長し、実をつけるまでになった。収穫したじゃがいもは、干して、蒸して、食べてみた。最高においしかった。  
地元野菜を使って家庭菜園ができるなんて、本当にせいたく経験させてもらった。農地が多い所沢に住んでいるからこそ、できた経験だと思っている。今は「所沢ヒーロー」たちが成長中。太陽の光をいっぱい浴びて、もっともっと大きくなあれ！

**初めての家庭菜園**  
久米・柳橋 コト  
スーパーが閉店して毎日買つ野菜に困り、家庭菜園に取り組み始めた。人のまねをしなからナス・ミニトマト・紫蘇を植えた。  
ミニトマトは真っ赤な実をつけ、その新鮮さに自分で感動した。  
ナスは紫の花がほむと少しずつ育ち、子どもを育てるのにも似ているのを感じた。朝採り野菜を糠に漬け、ひとりの食事に彩りをそえた。自分で作った物のおいしさを知った。夫にも食べさせてあげたかった。  
周りには家庭菜園をする人が増えた。そして余った物は分けられる。物を育てることは、気持ちを優しくしてくれるのだろうか。